

セ ン サ ー

1996年 1月号 第29号

東京温度検出端工業会 会報

年頭に当って

会 長 西 村 明

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年はいどい年であったと思います。年明け早々に阪神大震災があり、死者が6,000人を超すという、近年にない大災害になりました。

何と云っても、あの阪神高速道路が飴の様に曲ってしまった写真が私には最も印象が深く、自然の猛威をまざまざと見せつけられた思いがしました。その震災の復旧もまだ手をつけられたばかりの3月に今度は東京で地下鉄サリン事件が発生し、何人かの死者を出しましたが、事件そのものよりもむしろその後にかけて来た事で、多くの所謂エリートがオウムに入信し、この事件に係わっていた事から、現在の教育の問題にまで発展して多くの論争を生んだ事でした。

政治は混迷し、経済は不振を続け、年後半にはバブルの後遺症とも云える金融不安が表面化して来ました。社会現象もオウムとか銃器犯罪の多発とか暗いものばかりで、明るい話題は「ノモ」と「イチロー」だけだったと云っても過言ではありませんでしょう。

さて今年はどういう年になりましょうか。我々に取って一番問題になるのは、何と云っても4年続いた不況が終って、好況とは云えぬ迄も普通の年になってほしいという事だと思います。経済評論家の大多数の意見では、本年度の経済成長率は2%位になるだろうと見ています。昨年の1%の成長率よりはいくらか良くなる様ですが、成長率2%というのは80年代に於ては不況の年の数字です。従って決して樂觀出来る状態ではありません。しかも、大企業はリストラ、又は海外移転の成果により明らかに快復するが、中小企業は尚厳しい状況が続くのが実状でしょう。経済が真に快復に向うにはリストラだけでは駄目で、新技術を生み出し、技術革新をしなければならないとする意見も見うけられます。となると我々の様な中小企業には希望は無いのでしよ

うか。私はそうは思いません。

中小企業では新技術は生れないと極めつける事はありません。今でこそ大企業になっていますが、ソニーも京セラも或は任天堂にしても曾ては中小企業であり、しかもその時代に次々と新技術、新商品を生み出しそれによって大企業に発展して行ったのです。又技術革新とはメーカーに限るものでもありません。ディーラーが新商品を販売し、又新たな得意先を開拓するのも、広い意味での技術革新でしょう。こうして見れば中小企業にも販路を拓げる路は開かれている筈です。

今一つ申し上げたいのは我々の商品の価格の問題です。私は価格破壊という言葉はあまり好きではありませんが、要はバブル期にその商品の本来の価値以上に価格が上がったものが、本来の商品価値まで下るのであれば当然の事です。しかし我々の扱う商品は土地や株の様にバブル期にも暴騰はしませんでした。それが他の物価が下るに従って価格を下げざるを得なくなり、当然必要とされる利益も生み出せなくなっています。仕事を続けて行く者には適正な利潤が無ければなりません。我々はお互いの中で、その適正利潤さえも出せぬ様な競争をしているのです。此処は一つお互に考えて、価格を上げるという事ではなく、適正な利潤が取れる処まで値戻しをする必要があるのではないのでしょうか。

以上二つの点を申し上げましたが、それでは工業会はこの点についてどんな役割をする事が出来ましょうか。第一の技術の向上という点に就ては、現在でも既にやっている面もあります。

年に数回行う技術講習会、又東京都工技との共同研究等を、将来更に拡充する事により、我々の間から新技術、新商品の生れる為の基礎作りをお手伝いする事は可能だと思われれます。第二の価格問題に関しては、直接お手伝いする事は出来ません。業界団体が直接価格を操作する事は、現状では許されていません。しかし、会員の皆様が会の内でお互いの親睦を深め、相手の立場を理解し合う事によって、自ら規制をして行く事は可能でしょう。又かつて工業会で行った様な標準仕様、標準価格を論議する事は許されていますので、そんな点から適正価格を生み出す事は出来ない事ではないでしょう。

現実にはどちらも非常に難しい問題だと思えます。しかし理想は高く持ち、現実には一歩、一歩、足元を固めて行くのが我々の取るべき途ではないのでしょうか。決して希望を捨てず、より良い明日に向かって努力を続けければ、やがて日も当たってくるものと信じています。

会員の皆様にとって今年が良い年になる事を祈念しまして年頭の御挨拶と致します。

会の動き

- ◎平成7年2月3日 新春懇親会
銀座「三日月亭」において 参加者 30名
- ◎平成7年3月15日 講演会
「PL法について」
講師 大東京火災海上保険㈱ 桐淵 昭氏 参加者 20名
- ◎平成7年5月16日 第31回「けんたん会」
久邇カントリークラブにおいて 参加者 12名
優勝 大手金属㈱の松谷俊明氏
グロス 92 ネット 77 参加者の平均スコア 105.7
- ◎平成7年6月6日 定時総会
東海倶楽部において、平成6年度事業報告、会計報告及び平成7年度事業計画を提案し、承認された。
役員の変更期にあたり、新理事10名が選出され、会長に西村 明氏を互選した。
ひきつづき懇親会を行う。参加者 34名
- ◎平成7年6月30日 第30回「技術懇親会」
新宿モノリスにおいて、横河電機㈱ 小川実吉氏による記念講演。
演題「熱電対関連-JISの改正について」
ひきつづき懇親会を行う。参加者 47名
- ◎平成7年9月12日 講演会
「個」から「場」への技術展開と温度センサー
講師 放送大学教授 森谷正規氏 参加者 23名
- ◎平成7年11月1日 第32回「けんたん会」
習志野カントリークラブにおいて 参加者 14名
優勝 東京岡崎産業㈱の津越 宏氏
グロス 92 ネット 81 参加者の平均スコア 107.9
- ◎平成7年11月15日 工場見学会
大手金属㈱ 富土工場、スズキ㈱ 湖西工場
参加者 21名
- ◎平成7年11月24日 第31回「技術懇親会」
①貴金属熱電対のトラブル事例
石福金属興業㈱ 宮下誠一氏
②欧州における熱電対・補償導線の動向
テグサジャパン㈱ 栗田文人氏
③高温用白金測温抵抗体によるR熱電対の校正
都工技 尾出 順氏
参加者 33名

理 事 会

平成7年2月3日

- ◎3月15日に、PL法について講演会を行うことを決定。

平成7年4月14日

- ◎第21期、定時総会に提出する各報告及び案件を承認。
- ◎「けんたん会」を5月16日に行うこと、定時総会を6月6日に行うことを決定。
- ◎都立工業技術センターとの技術懇親会を30回の記念会とし、新宿モノリスで行うことを決定。

平成7年6月30日

- ◎平成7年度、8年度の事業担当理事を決定。
- ◎年間行事について意見交換。
- ◎9月12日に、講演会を行うことを決定。

平成7年9月4日

- ◎「けんたん会」を11月1日、習志野カントリークラブで行うこと。
工場見学会、技術懇親会をそれぞれ11月15日、11月24日に行うことを決定。

平成7年12月5日

- ◎新春懇親会を池袋の海鮮問屋で行うこと。
会費を1人8,000円とすることを決定。

工場見学会報告

林電工株式会社 阿部 哲人

11月15日 くもり。きょうは恒例の東京温度検出端工業会の工場見学会の日である。大手金属㈱富士工場とスズキ㈱湖西工場を見学する。とても寒い日ではあったけれども私の心は燃えている。そうアルミ溶解炉のように。それはさておき、入社して日の浅い私にとっては、現場を見学できる貴重な機会であることは確かで、自然と力も入る。これを活かして少ない経験や貧弱な創造力を補えればと思う。

さて、1社目の見学先は大手金属㈱富士工場だ。ここでは、市中アルミ缶のリサイクル事業に取り組んでいて、この富士工場では集められた缶ビール等の空き缶を溶解している。(ちなみに企業ベースでは日本で唯一なのだそうである。)

工場内部には空き缶の山と幾つかの溶解炉等があり、空き缶が発する つんとくる臭いと騒音と心地よい暖かさが混ざり不思議な雰囲気だ。炉から流れ出す溶けたアルミは、赤くなく水銀のようで、滑らかで美しい。そう見えるのは、ゴミとして捨てられたアルミ缶が、ここで再び新たな生命を吹き込まれるからだろうというのは格好つけ過ぎか。ともかく、ここで働く皆さんの環境問題に挑む姿勢は見習わなくてはいけない。私も空き缶にタバコの吸い殻を捨てるのはやめよう。

続いてはスズキ㈱湖西工場を見学する。時間がない事情もあって、簡単な説明とビデオ及び質問のあと工場に向かう。プレス、溶接、塗装、組立、検査と進むラインには、人の姿はやっぱり多くなくほとんど自動化されている。まさに自動車だ。組立の工程で働く人達は、流れる車体に部品を組み込んでいくのだが、その流れに必死で合わせているように見える。何となくロボットに働かされる未来の人間が頭に浮かんでくる。

以上、本当に非常に簡単ですがこれで報告書にさせていただきます。無理に題をつけるなら、豊かな日本の理想と現実でしょうか。少し大げさですが、地球と人と企業の共存を考えさせられる1日でした。

電気計測器 生産

(金額：百万円, 前年比：%)

(出所：通産省生産動態統計)

生産	電気測定器								工業計器					
	信号発生器・発振器			測定用記録計・データ処理装置			その他の電気測定器		発信器					
							温度計							
	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	数量	金額	前年比	
94(H6)暦年	21,599	7,574	-8.4	60,462	16,668	-18.1	48,864	7.7	260,475	-20.4	329,575	7,865	-9.2	
94(H6)年度	23,941	8,335	21.3	63,890	17,700	-3.4	48,827	5.5	255,294	-15.0	341,407	7,888	-5.8	
94/7~9	5,164	1,993	25.1	14,697	4,335	-14.1	11,956	-0.7	64,456	-20.7	85,239	2,073	-8.6	
94/10~12	6,228	1,923	33.2	15,592	4,070	-13.0	11,329	3.0	60,582	-10.9	80,700	1,912	-6.9	
95/1~3	7,567	2,895	35.7	18,545	5,249	24.5	13,412	-0.3	71,201	-6.8	91,994	2,072	1.1	
95/4~6	4,566	1,263	-17.2	14,431	4,450	10.0	12,050	-0.7	63,101	6.9	86,580	2,076	13.0	
95/6	1,311	403	-8.4	5,008	1,746	12.8	4,331	-0.1	22,927	7.4	29,009	722	10.2	
95/7	2,012	512	-14.8	5,825	1,559	14.5	4,055	-5.4	20,370	6.1	30,255	793	21.8	
95/8	1,685	417	-41.7	4,327	1,478	21.2	4,587	24.3	19,262	-0.4	26,264	710	14.7	
95/1~95/8	15,830	5,087	2.3	43,128	12,736	17.4	34,104	1.6	173,934	0.0	235,093	5,651	9.7	
95/4~95/8	8,263	2,192	-22.8	24,583	7,487	13.0	20,692	2.9	102,733	5.3	143,099	3,579	15.4	

生産	工業計器													
	発信器									指示記録計			調節計	
	流量計			差圧計			その他の諸量計							
	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額
94(H6)暦年	71,980	15,171	-15.2	56,149	13,475	16.0	9,864	-0.3	129,496	14,587	-19.8	389,949	13,887	-7.8
94(H6)年度	74,846	15,776	-12.1	56,162	13,131	4.9	10,827	10.2	132,485	14,969	-10.8	389,610	14,077	-2.9
94/7~9	19,645	3,922	-18.0	13,955	3,443	2.9	3,005	-76.6	31,517	3,629	-15.2	103,273	3,546	-7.9
94/10~12	16,284	3,243	-26.6	13,796	3,288	24.2	2,351	-80.2	32,344	3,728	-18.7	103,223	3,294	2.0
95/1~3	22,494	5,491	12.4	15,070	3,247	-9.6	3,227	42.5	38,708	4,322	9.7	91,244	3,810	5.2
95/4~6	18,691	3,667	17.5	13,753	2,305	-26.9	3,290	46.6	33,206	3,786	15.1	100,015	3,370	-1.7
95/6	6,152	1,199	23.0	5,434	837	-23.3	1,049	20.4	11,741	1,307	6.0	35,228	1,131	-2.8
95/7	6,653	1,267	10.8	5,357	799	-24.9	1,063	3.2	19,099	1,326	10.6	28,306	1,071	-13.2
95/8	5,746	1,125	13.1	4,065	779	-28.7	928	9.0	10,189	1,208	11.4	28,108	1,044	-0.5
95/1~95/8	53,584	11,550	13.9	38,245	7,130	-19.9	8,508	33.2	101,202	10,642	11.9	247,673	9,295	-0.4
95/4~95/8	31,090	6,059	15.2	23,175	3,883	-26.9	5,281	28.0	62,494	6,320	13.4	156,429	5,485	-4.0

編集後記

昨年には本当に激動の年でした。1年前のこの編集後記には新年早々、地震が多発していて、何やら波乱含みの1年になるような予感がする、というようなことが書いてあります。その時点では、まだ神戸を中心とした大地震の前であり、八戸を中心としておこった地震について書いたものでした。そのわずか数日後に未曾有の大災害がおこるとは、全く想像外のことでした。まして、その後におこったサリン事件等は全く思い及ばぬことでした。1ドル80円をこえる円高もそれから始まったのです。1995年は本当に歴史に残る年になることでしょう。

さて、今年はどうなるのでしょうか。新年早々、内閣が変わりました。80円をこえる円高もほぼ一年前にもどり、一息ついたところという感じです。多くは望みません、どうか静かで、そして少して良いですから、景気も良くなってほしい。そんな気持ちを抱いています。

平成 8 年 1 月 発行 No. 29

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都文京区本駒込 6-5-5 (林電工株式会社)

電話 3945-3151